

狂言

# 一人袴

野村萬齋

ほか

# 能

# 能 景清

梅若実

(日本藝術院会員・人間国宝)ほか

松門之会 積



能撮影：山口宏子



撮影：森山雅智

鼎談

梅若実  
野村萬齋  
山崎敬子  
(玉川大学講師)



2021 **5月15日(土)** 江戸川区総合文化センター 大ホール

13:00開演(12:00開場) SS席5,500円 S席4,500円 A席3,000円(全席指定・税込)

■お申込み受付

- サポーターズ・クラブ先行発売：2月20日(土)より
  - 江戸川区民先行発売：2月20日(土)より
  - 一般発売：2月27日(土)より
- 発売初日の窓口販売は行いません。(先行発売日・一般発売日とも)

[電話] 03-3652-1106 (10:00~) [ホームページ] <https://edogawa-bunkacenter.jp> (10:00~)

ご来場のお客様へ

マスクの着用、入場前の検温、手指の消毒のほか係員からのお願いや指示に従っていただけますようご協力ください。

写真で観る  
能楽展

人間国宝・梅若実の舞台姿を  
能楽師・松山隆之による解説で  
鑑賞できる写真展。  
深みのある能楽の世界を多数ご用意しています。

2021年4月11日(日)~5月15日(土)  
江戸川区総合文化センター内  
9:00~22:00(最終日は16:00まで)  
入場無料

※前後左右1席ずつ空けて販売しますが、今後の状況によっては追加販売する場合がございます。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※車椅子席・同伴者席は、江戸川区総合文化センター窓口・電話のみの販売です。

※<江戸川区民先行発売>は、江戸川区在住、在勤、在学の方限定。お申込みの際に、ご住所・勤務先等を確認させていただきます。

※<江戸川区民先行発売>は、ホームページでの受付は行いません。

お申込み  
お問合せ 江戸川区総合文化センター 〒132-0021 東京都江戸川区中央4-14-1  
TEL.03-3652-1106(9:00~21:30) <https://edogawa-bunkacenter.jp>

主催：江戸川区／江戸川区総合文化センター指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ  
後援：公益財団法人 梅若会 協力：緑翔会





# えどかゝ能

室町時代より600年以上もの長きにわたって継承されている「能楽」は、演劇としては世界最古ともいわれる日本独自の舞台芸術で、世界無形遺産にも指定されています。日本が世界に誇るこの伝統芸能を、25年ぶりに江戸川区総合文化センターで上演します。

うめわかみのるげんしょう

## 四世 梅若 実 玄祥

観世流シテ方 日本藝術院会員  
梅若六郎家56世現当主

1948年 東京生まれ。1951年 能『鞍馬天狗』子方にて初舞台、1979年 梅若六郎家当主継承。1988年 伍拾六世梅若六郎を襲名。2007年 日本藝術院会員拜命、2014年 重要無形文化財(各個)指定保持者(人間国宝)認定。2008年 徳川初期に活躍した梅若家中興の祖である九郎衛門玄祥の名を後世に残すため、345年ぶりに名跡復活、梅若六郎改め五拾六世 二代 梅若六郎玄祥を襲名。2018年2月16日、亡き父に三世 実を追贈し、梅若家の名跡四世 実を襲名。古典は基より能の復曲、新作能の上演に出演・演出するなど現代に生きる古典芸能としての能を支えている。海外への能の紹介にも意欲的に取り組み、各国に招聘されるなど、能の普及を努めている。



撮影:森山雅智

のむら まんさい

## 野村 萬斎

1966年生まれ。野村万作の長男。祖父故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。国内外で狂言の普及を目指す一方、新しい演劇活動にも意欲的に取り組む。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊国屋演劇賞、芸術祭優秀賞、毎日芸術賞千田是也賞など受賞多数。世田谷パブリックシアター芸術監督。著書に「萬斎でござる」「MANSAI◎解体新書」(朝日新聞社)「狂言三人三様野村萬斎の巻」(岩波書店)「狂言サイボーグ」(日本経済新聞社/文春文庫)など。



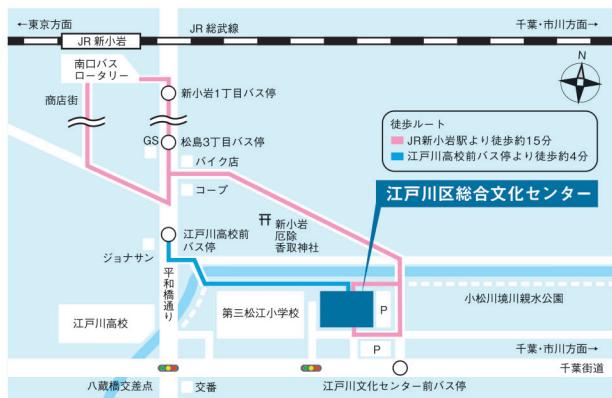
## あらすじ

### 能 『景清』

平家の勇将 悪七兵衛景清(シテ)は今では流罪人、盲目となり乞食の生活を送っている。鎌倉より景清の娘 人丸(ツレ)が父を慕い従者(トモ)と共に旅に出て九州宮崎へと訪れる。ある藁屋の乞食に本人とは知らず父の行方を尋ねると、乞食となった景清は自分の落胆の身の上を恥じ、また娘の行末を案じ他人のふりで追い払う。しかし、人丸が近くの里人(ワキ)と同じく尋ねると先刻の乞食が景清だと教えらる。里人の案内で再び藁屋を訪れると景清は乞食の身を恥ながらも親子の名乗りを上げる。そして娘の為に華やかだった源平屋島の合戦の武勇伝を昔語るが、それを語り終えるとまた涙ながらに別れを告げて娘を鎌倉へと送り出す。

### 狂言 『二人袴』

今日は<sup>むこ</sup>賀入り(結婚後、妻の実家に初めて挨拶に行く事)の日。舅の家では準備を整え、賀が来るのを心待ちにしている。一方の賀は、一人で行くのは心細いからと父親に舅の家の門前まで付き添われてやってくる。賀に礼装の長袴をはかせてやり、父は表で待っていたのだが、太郎冠者に見つけられてしまい、父親も舅に挨拶することになってしまう。しかし、長袴は一つだけ。さて、この親子はどうやってこの場を切り抜けるのか…。  
明るいめでたさのある賀狂言の代表曲です。天真爛漫な賀とそれに慌てる父親の、舞台上から漂う何ともほのぼのとした雰囲気をお楽しみ下さい。



## 江戸川区総合文化センター

〒132-0021 東京都江戸川区中央4-14-1  
TEL 03-3652-1106 (9:00~21:30)  
FAX 03-3655-9935 (24時間受付)  
<https://edogawa-bunkacenter.jp/>

### ■アクセス

- 【電 車】 JR総武線 新小岩駅 南口より徒歩約15分
- 【バ ス】 新小岩駅南口前 ③④番乗り場  
〈新小22〉葛西駅前行き、〈新小21〉西葛西駅前行き  
「江戸川高校前」下車 徒歩約4分
- 【駐車場】 普通車244台(1時間200円、以降1時間ごと100円)

### バリアフリーサービス

江戸川区総合文化センターでは、皆様に安心して施設をご利用いただけるよう、様々な取り組みを行っております。詳しくは窓口までお気軽にお問合せください。

- 身障者用駐車場
- 車椅子貸し出し
- 車椅子席・同伴者席の設置など